

優しい風の吹く街

能登半島地震により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。



2024年がスタートしました。年末から話題となっている、自民党各派閥における「キックバック問題」を見聞するにつけ、怒り心頭に発するばかりです。とにかく事実を明らかにし総括すべきです。

さて、12月宝塚市議会では、物価高騰で厳しい状況にある住民税非課税世帯に緊急支援として7万円の給付を行う議案を可決し、1月初旬に迅速に実施することとしています。今後も暮らしの安心を支え、消費を喚起するための改革をめざし、他の仲間と協力して国に意見を届けます。

今年も、子どもたちや弱い立場の人々に寄り添い、議員として迷わず進みます。どうぞよろしくお願いいたします。

活動報告

- 9月9日 レッツチャレンジ・パラスポーツ
- 9月14・22日 宝塚市じんけん講座
- 10月8日 大阪レインボーパレード
- 10月9日 宝塚市民大運動会
- 10月12・13日 全国都市問題会議（青森県八戸市）

「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」

全国から市長と市議会議員が多く参加。私は宝塚から寺本早苗議員と一緒に参加した。まちづくりの活力は、地域に根ざした文化政策から育まれるという実例をたくさん見聞することができた。そして、豊かな人生と街の発展はともにあるものだ実感できた。

- 10月22日 松江市姉妹都市交流記念式典
- 11月2日 宝塚市戦没者追悼式
- 11月7日 宝塚市議会郷土史研究会
- 11月11日 兵庫県教育研究集会
- 11月23日 宝塚市武道連盟演武大会
- 11月20日～12月25日 12月定例市議会



1、地域育成会事業について

<質問①>

今年度支援員4人が未配置となった原因とその課題は。正規採用の支援員の複数配置に向けた人材確保が必要である。見解は。

<市長答弁>

年度途中での退職が相次ぎ支援員の配置ができていない。配置換えや補助員の配置で対応している。支援員は、教員、保育士などの資格を有することを要件としている。これらの資格を有する人材不足が問題。広報誌において支援員の仕事の魅力を伝える特集ページを組んだり、ネット広告の活用など広く目に留まるよう工夫したり、人材確保の取組を進める。

<質問②>

特別支援児が10人在籍すると専任支援員1人配置という基準は見直しが必要ではないか。

<市長答弁>

支援員の役割は、児童の特性に合わせた補助や保育方法について、的確に補助員に助言・指導するほか、保護者への情報提供や育児相談、学校との情報共有や連携などで、業務の重要性は認識しているが、人の配置とともに適切なスペースの確保も重要。

<質問③>

老朽化がひどく子どもの安全と健康が保障されない育成会室は計画的な建て替えが必要ではないか。

<市長答弁>

全23小学校のうち、12校が学校校舎内で、11校が学校敷地内もしくは隣接する敷地に設置された専用棟において実施。修理及び修繕については緊急性を考慮し、予算の範囲内で可能な限り速やかな対応に努めている。

2、教育環境整備について

<質問①>

外国人児童生徒の人権・教育権に関わる多文化共生教育の充実のための条件整備は進んでいるか。

子ども多文化共生サポーター派遣については、年度途中の転入には対応できていない実態があるが。

<教育長答弁>

本市では外国人児童生徒が多く在籍している現状から、学校においては国籍や民族等の「違い」を認め合い、共生する心を育むための「多文化共生教育」の取組に力を入れている。日本語の不自

由な子どもについては、学校園生活の適応と自立を目的に、兵庫県の子ども多文化共生サポーターと本市の日本語サポーターを併せて派遣している。年度途中の転入にも対応できるよう計画をたて、継続的な支援ができるよう努めていく。

<質問②>

「ともに生き、ともに学ぶ」インクルーシブ教育の充実は進んでいるか。特別支援学級の児童生徒数は年々増加してきているが、介助員の数は横ばいのままである。一人ひとりの子どもの学ぶ権利を保障し安全が保たれるようニーズに沿った介助員の増員が必要ではないか。

<教育長答弁>

介助員については生活介助の必要性を市の配置基準に照らして判断しており、他市町よりも高い基準で配置している。また、交流及び共同学習への付き添いや学習補助については、学習支援員を配置し学校からのニーズも高まっている。今後は介助員と学習支援員の役割やバランスを整理し、研修等も行いながら支援の質の向上を図っていく。



<質問③>

文部科学省のCOCOLOプランに基づく対策とアプリ等による「心の健康観察」の推進は。

<教育長答弁>

同プランは、本年3月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」として取りまとめられた。第1に、学びの場と学べる環境を確保すること。第2に、心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」で支援すること。第3に、学校風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする。

このうち、第1の、学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えることについては、本市では、別室を市立中学校11校に設置している。生徒はタブレットを活用し、オンラインで授業に参加するほか、週3日配置している別室登校指導員に悩みを相談することが

できる。小学校では、別室や保健室、学習室などを活用し教室以外の居場所づくりを行っている。また、教育支援センター中学部の「Pal たからづか」や小学部の「CoCo たからづか」では不登校児童生徒の社会的自立を目指し、きめ細やかな指導と体験を通じた活動を積み重ねている。

第2は不登校になる前に「チーム学校」による支援のため1人1台端末でマイクロソフト社のアプリ「リフレクト」を全小中学校で活用し、児童生徒の心の揺らぎを観察できるようにしている。また、児童生徒端末内の教育委員会専用掲示板に児童生徒が相談できる窓口を紹介している。

そして、「チーム学校」による早期支援としてはスクールカウンセラー18人、スクールソーシャルワーカー8人を配置し、全小中学校に対応。県の不登校プロジェクトに基づき、各校に設置している不登校対策チームの一員として、専門性を発揮して効果的な不登校支援に努めている。また「こころとからだのアンケート」の活用方法の研修を行い子どものSOSの早期発見に努めている。さらに毎月、長期欠席児童生徒の情報を共有し支援連携会議を通して福祉や医療等の支援に繋げている。

第3の、学校の風土の「見える化」については国から子どもの学校生活満足度を図るアンケートツールが複数示されたので導入に向け研究していく。



3、防犯・交通安全対策について

<質問①>

宝塚駅前ロータリーのタクシー待合広場周りの柵は角度によってはブラインド状態になり横断者を確認しにくい。交通マナーの向上だけでなく、見通しの良さを確保するなど構造上の工夫からもアプローチできないか。

<市長答弁>

柵などの改善や植栽の剪定などによる視認性の確保、注意喚起の啓発看板設置などについて検討していく。



<質問②>

県営宝塚小林鉄筋住宅の居住者が少なくなり、近隣住民からの不安がある。今後の見通しと防犯対策は。

<市長答弁>

当住宅は用途廃止に向けて入居者募集を停止しており建て替え計画はない。住み替え完了までに相当な時間が必要と考えられる。近隣住民の不安を軽減する防犯対策については県に要請していく。

北野さと子の意見

住み続けておられる住民の中には、移転に対しての生活上及び経済的な不安を抱えておられる方がいる。県と市が連携して、防犯対策とともに生活相談に乗ったりサポートしたりすることを求める。

活動カトピックス



12/3 阪神淡路大震災犠牲者追悼「生」の石積み
1/16にライトアップ

風のこころ

昨年は阪神タイガースの優勝で地域が盛り上がったが、宝塚歌劇団員の悲しい事件により、重苦しい課題を持ち越す事態となっている。働き方改革とともに、ハラスメント撲滅に向けて、みんなとともに考えていくことが必要ではないだろうか。

